

発生日	国名	種別	概要
2020年 10月3日	フランス イタリア	土石流	<p>【10月4日 時点】仏伊国境地帯は激しい暴風雨や集中豪雨、鉄砲水に見舞われ、3日までにイタリアで2人が死亡し、フランスで8人が行方不明となった。この水害で道路や民家が押し流された他、土砂災害や村全体が孤立状態になる等の被害が出た。救助隊員ら数百人が出動し、逃げ遅れた生存者の捜索が行われた。</p> <p>暴風雨「アレックス (Alex)」は1日にフランス西岸を直撃して各地に強風と豪雨をもたらした後、イタリアに移動。伊北部各地は3日終日、猛烈な暴風雨に見舞われた。アレックスによる仏伊国境地帯の雨量は最大500ミリに達した。</p> <p>イタリア・アオスタ渓谷 (Aosta Valley) ではボランティアの消防隊員1人が死亡。また東に約100キロ離れたセージア (Sesia) 川でも、車ごと川に流された男性1人が死亡した。</p> <p>3日午後、イタリア市民保護局のマラー・アナスタージ (Mara Anastasi) 報道官は、ドイツ人2人とその孫らを含む21人を発見し、ヘリコプターで救助したと明らかにした。</p> <p>同国では道路が封鎖されたことを受け、消防隊員ら数十人がある村に列車で向かおうと試みた。</p> <p>フランスの救急当局者は、土砂災害で足止めされ古い駅舎に身を寄せていた約40人を安全な場所に空輸したと発表。同国では、軍や数百人の救助隊員が行方不明者の捜索に当たった。</p>
10月12日	ベトナム	地すべり	<p>【10月19日 時点】12日未明(当初の報道では正午)に北中部地方トゥアティエン・フエ省フォンディエン郡フオンアン村 (xa Phong Xuan, huyen Phong Dien) で建設中の第3ラオチャン (Rao Trang 3) 水力発電所で地すべりが発生し、工事現場の作業員と捜索救難に向かっていた救助隊メンバーの計30人が行方不明となった事故では、19日午前までに作業員2人と救助隊員13人の遺体が発見・収容された。第1現場の発電所では、その後も行方不明となっている作業員15人の捜索が行われた。</p> <p>事故の知らせがあったのは12日午後だが、電波が弱いせいか電池切れかで通話は途中で途絶えてしまったとのこと。通報を受けた省当局は救助隊を派遣したが、現場までの道のりは、熱帯低気圧による大雨のせいで地すべりと地下水の上昇が発生していたため、同日中に事故現場までたどり着くことが出来なかった。さらに、事故現場付近は電波状況も悪く、最新情報が入りにくい状況だった。</p> <p>このうち17人は同水力発電所の労働者、残りは同日未明に連絡を絶った救助隊メンバーで、第4軍区副指令のグエン・バン・マイン少将も含まれていた。派遣された救助隊は21人だったが、連絡が取れたのは8人のみ。事故現場に向かう途中、新たに発生した地すべりで生き埋めになった模様。</p>
10月18日	ベトナム	土砂・洪水氾濫、地すべり	<p>【10月20日 時点】自然災害防止中央指導委員会の19日の発表によると、6日から続いている豪雨が中部の広範囲に甚大な被害をもたらしており、18日までに84人が死亡し、38人が行方不明となった。</p> <p>北中部地方クアンチ省フォンホア郡フオンフン村 (xa Huong Phung, huyen Huong Hoa) にある第4軍区第337国防経済団の駐屯地で18日午前1時25分ごろに地すべりが発生し、家屋3軒で夜を過ごしていた兵士ら22人が土砂の下敷きになった。翌19日午後2時30分ごろまでに、22人全員の遺体が発見・収容された。</p> <p>民家への被害について、クアンチ省、北中部地方クアンビン省を中心に、5万2,933軒が浸水、2万4,734軒が倒壊した。農作物への被害については、稲作地924ヘクタール、野菜農園等その他作物約10万6,616ヘクタールが影響を受けている他、家畜・家禽46万1,627頭/羽が死亡、または濁流に飲み込まれた。</p> <p>クアンビン省と北中部地方ハティン省を中心に、中部では21日にかけて豪雨が続き、同2省では300～600ミリの雨量が観測され、洪水が深刻化する見通しであり、同クアン省では100～250ミリ、クアンチ省、トゥアティエン・フエ省では150～300ミリ、南中部沿岸地方クアンナム省、同クアンガイ省では50～100ミリの雨量が観測されると予想されていた。</p>
10月28日	ベトナム	土砂崩れ	<p>【10月29日 時点】台風18号 (アジア名: モラヴェ、Molave) に見舞われたベトナム中部では29日、土砂崩れ等でこれまでに21人の死亡が確認された。被害はここ数年で最悪規模となっており、死者はさらに増えることが危惧された。</p> <p>台風18号は28日、ベトナム中部の村々を直撃した。倒木や家屋の屋根が吹き飛ばされる等の被害が出た他、すでに数週間にわたり洪水の深刻な被害を受けていた地域が再び豪雨に見舞われた。</p> <p>クアンナム (Quang Nam) 省では、被害の大きかった村3か所で土砂崩れが発生。国営メディアによると、これまでに19人の遺体が収容された。当局によると、45人が土砂の下敷きになったとみられていた。</p> <p>また、2人が台風から自宅を守ろうとして死亡した。</p> <p>漁船2隻が台風上陸前に消息を絶ち、漁業関係者26人が行方不明となり、ヘリコプターや海軍の艦船による捜索が行われた。</p> <p>国際赤十字・赤新月社連盟 (IFRC) によると、台風18号上陸前の数週間に深刻な洪水と土砂崩れが発生し、130人が死亡、家屋31万戸以上が損傷または全壊した。</p> <p>IFRCは、120万人近くが「深刻な危険」に見舞われており、支援を必要としていると訴えていた。</p>

発生日	国名	種別	概要
10月30日	エルサルバドル	土砂崩れ	【10月31日 時点】中米エルサルバドルの首都サンサルバドル近郊で30日、豪雨による土砂崩れが発生し、6人が死亡、約35人が行方不明になったと警察が発表した。内務省によると、消防隊、警察、軍から約300人が出て、行方不明者の捜索に当たった。首都から約15キロ北に位置するネリバ(Nejapa)では、家屋50軒が土砂に押し流され、教会に身を寄せていた35人ほどが被災地から避難した。
11月1日	フィリピン	土砂崩れ	【11月2日 時点】フィリピン当局は2日、2020年最強の勢力に発達した台風19号(アジア名:コニー、Goni)により、少なくとも16人が死亡、家屋2万棟以上が倒壊、約5万5,500棟が半壊したと発表した。被害が最も大きかった地域では、通信が遮断された。台風19号は1日、フィリピンの東海岸に上陸。最大風速は62.5メートルで、カタンドゥアネス島(Catanduanes Island)と、隣接する最も人口が多いルソン(Luzon)南部アルバイ(Albay)州を直撃した。ルソン島南部では、猛烈な風と集中豪雨により電柱が倒れた他、洪水と土砂崩れにより家屋が飲み込まれた。上陸前に約40万人が避難しており、その後も大半が避難所にとどまることとなった。当局は被害が最も深刻な地域の電力と通信サービスの復旧に取り組んだ。アルバイ州では10人が死亡したが、早期に避難していなければ「数千人が死亡していた」と、同州の災害当局トップは語った。警察によると死亡した10人のうち3人は、同州にある火山、マヨン(Mayon)山付近の二つの村で発生した火山灰層の土砂崩れに巻き込まれた。台風19号は、「スーパー台風」に発達してカタンドゥアネス島に上陸。同島では少なくとも6人が死亡した。
11月6日	グアテマラ	土砂崩れ	【11月7日 時点】中米グアテマラのアレハンドロ・ジャマテイ(Alejandro Giammattei)大統領は6日、大型ハリケーン「エータ(Eta)」の上陸に伴い相次いだ土砂災害により、約150人が死亡または行方不明になったと明らかにした。村全体が土砂に埋まる被害も出ているとのこと。ジャマテイ氏は、北部の村ケハ(Queja)では救助活動を行う陸軍部隊が到着したと説明。部隊からの初期報告として、「住宅150棟が土砂に埋まり、100人が死亡した恐れがある」と伝えた。さらに、メキシコと国境を接する北東部ウエテナンゴ(Huehuetenango)県でも土砂崩れが発生し、10人が死亡したと発表。「死者と行方不明者を含む非公式の死者数は150人前後」と述べた。ジャマテイ氏は、ケハの状況は「深刻」であり、大雨が続く中で新たな土砂崩れが発生する恐れがあり、道路も遮断されているとした。
12月25日	イラン	雪崩	【12月27日 時点】イランの首都テヘランの北の山岳地帯で吹雪と雪崩が発生し、登山者8人が死亡、少なくとも7人が行方不明になったとイランのメディアが26日に伝えた。イラン赤新月社(Red Crescent)の幹部は国営イラン通信(IRNA)に対し、「赤新月社の救助隊による捜索活動で、行方不明だった8人の登山者の遺体が収容された」と語った。IRNAによると、登山者らのグループは25日、テヘラン北部の山岳地帯で発生した雪崩や吹雪のため、行方が分からなくなっていた。イラン国営テレビは、テヘラン郊外にそびえるアルボルズ(Alborz)山脈のトチャル(Tochal)やコラクチャル(Kolakchal)山で行われたヘリコプターによる救助活動の一環で、赤新月社の要員が積雪のある山のふもとで遺体を担架で搬送している映像を伝えた。赤新月社の救助隊員は、「悪天候と積雪」の影響で捜索救助活動が難航したと語った。
12月30日	ノルウェー	土砂崩れ	【12月31日 時点】ノルウェーの首都オスロ近くの村で夜間に大規模な土砂崩れが起き、12人が行方不明、10人が負傷したと警察が30日明らかにした。土砂崩れが起きたのはオスロから約25キロ北東に位置するイエルドルム(Gjerdrum)にある、人口1,000人ほどの村アスク(Ask)。現場の映像には、広い範囲の地面が崩落し、家屋が押しつぶされ泥に埋もれた様子が捉えられていた。朝から雪が降る中、救急隊が負傷者を救出した。家屋数軒が、土砂崩れでできた斜面の頂上に不安定な状態で取り残され、救急隊はこうした家屋等を安定させる活動を行った。アーナ・ソールバールグ(Erna Solberg)首相は30日にアスクを訪れ、記者団に対し、今回の土砂崩れが同国史上「最大規模のものの一つ」と述べた。同国メディアの報道によると、700人が避難した。警察は12人が行方不明になったと発表し、行方不明者について「土砂崩れの現場で行方不明となっているのか、休暇中でいなのか、別の理由で警察に連絡できないのか把握できていない」と説明。一方、負傷者は10人で、うち重傷の1人がオスロに搬送された。ノルウェー水資源エネルギー庁は今回の被害について、奥行き約300メートル、幅約700メートルの範囲にわたって「クイッククレーの地すべり」が起きたと説明。クイッククレーはノルウェーやスウェーデンに見られる粘性土で、過度の力が加わると崩れ、流動化することが知られている。
2021年 2月14日	インドネシア	土砂崩れ	【2月15日 時点】インドネシアで、集中豪雨に伴う土砂崩れが発生し、複数の民家が押し流されて少なくとも9人が死亡、10人が行方不明となっていると当局が15日明らかにした。多数の家屋が浸水し、何百人もの住民が避難を余儀なくされた。土砂崩れは14日夜、ジャワ(Java)島の東ジャワ(East Java)州地方部で発生した。捜索救助当局は、2人を救出、4人を遺体で発見し、依然行方不明の10人の捜索を行った。今回の土砂崩れでは、民家8軒が甚大な被害を受けた。